

## 『現象と秩序』投稿規定・執筆要領

### 『現象と秩序』編集委員会

2015年 10月 26日改訂

2017年 9月 30日改訂

2018年 3月 20日改訂

2019年 3月 10日改訂

2020年 3月 16日改訂

2021年 3月 31日改訂

2022年 3月 31日改訂

2023年 3月 31日改訂

### 1. 投稿資格

『現象と秩序』編集委員会委員本人およびその紹介者は、『現象と秩序』に投稿することができる。

### 2. 原稿の種類

1) 投稿する原稿の種類は、人文・社会科学及びそれに関わる学際領域の原著論文、ショート・ペーパー、論文、解説・総説、研究ノート、調査報告、実践報告、インタビュー記録、シンポジウム記録、書評、その他編集委員会が適当と認めたものとする。

2) 区分の指定は編集委員会が行うものとする。

### 3. 査読

1) 本誌への投稿原稿の掲載については審査制度をとる。なお、本誌では創刊以降、全ての論考が編集委員による査読を経て掲載してきた経緯があるため、過去の全論考についても査読制度の適用があったものであることを確認する。

2) 原著論文及びショート・ペーパーは匿名査読制とする。匿名査読を希望する原稿については、投稿申込時にどちらの区分を希望するか明記すること。匿名査読を経た論文については、雑誌表紙のタイトルおよび論文の最初のページに「匿名査読論文」と明記する。匿名査読の手続きの詳細に関しては、編集委員会が別に定める。

3) 査読は編集委員会が行う。但し、匿名査読に関しては、編集委員会から委託された匿名の研究者が査読意見を文書で提出するプロセスを必ず経るものとする。

(1) 編集委員会委員による査読が望ましくない場合／困難な場合は、委員会委員以外に査読を依頼することがある。

(2) 投稿から査読結果を通知するまでの期間は最大1ヶ月とする。

(3) 本誌は紙版発行と Web 上掲載の両方の手段で学術的見解の公表をするハイブリッド誌であり、したがって、随時投稿が可能である。投稿者は、査読結果が「要修正」となった場合には、必要な修正を行ったうえで2ヶ月以内に再投稿する。再投稿された原稿については、編集委員会が採否を決定し、投稿者に連絡がなされる。採用された場合は、執筆要領にしたがって電子ファイルによる完全原稿を作成し、編集委員会（2023年4月1日以降しばらくの間は、〒572-8508 寝屋川市池田中町 17-8 摂南大学・現代社会学部内樫田研究室、[kashida.yoshio@nifty.com](mailto:kashida.yoshio@nifty.com)）宛に、提出しなければならない。

#### 4. 発行と著作権と転載申請

冊子での発行は年1回、10月の発行を原則とする。編集委員会が形式要件を確認した日をもって原稿受理年月日とする。電子媒体による完全原稿は随時受け付け、掲載決定されたものについては、必要と希望におうじて随時ホームページ上で公開する。投稿者は投稿論文等が Web 上で公開されることを予め承認すること。また、本誌に掲載された原稿に関しては、著作財産権のうち「複製権（非独占）」および「公衆送信権（非独占）」を、本誌が得ることを投稿者はあらかじめ承諾した上で投稿を行うこと。なお、本誌の一部または全部は、ISSN（オンライン）に規定された Web サイトのほか、編集委員会が承認した別の Web サイトにもバックアップ的に掲載されることがあるが、投稿者はあらかじめこのように複数のサイトに当該著作物が掲載されることについても了解をした上で投稿を行うこと。

本誌に掲載した論文等を他誌等に転載する場合は、本誌編集委員会が Web 上に公開した「転載申請書 兼 許諾書」の書式ファイルをダウンロードし、必要な内容を記入した上で、『現象と秩序』編集企画室（[kashida.yoshio@nifty.ne.jp](mailto:kashida.yoshio@nifty.ne.jp)）宛に送付し、許諾を得ること。

#### 5. 執筆要領

1) 原稿は邦文、欧文のいずれでもよい（いずれも、横書きのみ）。

- 2) 電子ファイルによる完全原稿は以下の様式に従って作成する.
- 3) 原稿は Microsoft Word で作成すること.
- 4) 原稿は A4 サイズとする. 余白は横組みの場合は, 上 35 mm, 下 30 mm, 左右それぞれ 30 mm とすること.
- 5) 図表および写真はできるだけ論文の本文中に挿入する.
- 6) 字体, 字の大きさ, 段落は以下に従って作成すること.

(英語論文の場合)

・タイトル

英語のタイトルは Times 系フォント, 16 ポイント, 太字, タイトルの脇に雑誌タイトル等を記載する. 英文の雑誌タイトルは, Interdisciplinary Journal of Phenomena and Order とする.

・サブタイトル

タイトルに準じるが字数によっては, フォントを 12 ポイント程度にまで小さくしてもよい.

・著者名

Times 系フォント, 12 ポイント, 太字.

・所属

Times 系フォント, 11 ポイント. また, Corresponding author が分かるようにしたうえで, メールアドレスも付記すること.

・Abstract

Times 系フォント, 11 ポイント.

・Key Words

Times 系フォントでサイズ 11 ポイント, イタリック.

・本文, 引用文献

2 段組み. Times 系フォント, 11 ポイント. 1 頁の行数は 50 行程度.

英文原稿に限り, 各段落間に 1 行の空白行を挿入する.

・その他

日本語文献を文献表に載せる際には, 英訳とローマ字表記の両方を載せるか, ローマ字表記のみを載せるかは, 執筆者の任意とする. なお, 外国語文献のうち邦語訳が出版されて

いるものに関しては、訳書・訳論文の書誌情報を日本語で掲載する。

(日本語論文の場合)

- ・表題  
日本語のタイトルはゴシック体フォント、16 ポイント。
- ・副題  
表題に準じるが、字数によっては、12 ポイント程度にまで字を小さくすることができる。
- ・著者名  
ゴシック体フォント、12 ポイント。
- ・所属  
明朝体フォント、11 ポイント。責任著者が分かるようにしたうえで、メールアドレスも付記すること。
- ・英語によるタイトル、著者名、所属、Key Words  
所属の次に英語によるタイトル、著者名、所属、Key Words を入れる。体裁は上記英語論文と同じ。
- ・本文、参考文献、註  
1 段組み。小見出しへはゴシック体、11 ポイント。本文は、明朝体フォント、11 ポイント。  
1 頁の行数は 36 行程度。字数は 40 字程度。

## 6. 経費

当面は発行者が負担する。PC からのプリンター出力可能な完全原稿を提出しない者は、版下作成にかかる経費の負担をお願いする場合がある。抜き刷りの提供はないが、執筆部分の PDF ファイルが提供される。

## 7. 書式

上に指定した以外の書式に関しては、特別の理由のないかぎり、『社会学評論スタイルガイド（第 3 版）』（<http://www.gakkai.ne.jp/jss/bulletin/guide.php>）に従うものとする。

但し、見出し、及び、小見出しへは左寄せとする。また、見出し、及び、小見出しへの後に行空けを行わない。更に、将来の J-Stage 掲載を見据えて、文献表においては、同一著者が連続する場合であっても「——」表記はせず、繰り返しの著者名表記とする。

\*\*\*\*\*

【編集後記】『現象と秩序』第23号をお届けします。

今号では複数の論文（加戸論文、真鍋論文、岡田論文）に360度全方位ビデオカメラが出てきます。360度全方位カメラは、岡田（38頁）が言うように「多視点カメラ」です。すなわちソフト的な操作によって、事後的に視点を自由に設定した2次元動画を創り出せます。360度ビデオカメラを複数台用いた調査データなら、少なくとも視覚的環境に関しては、環境全部をまるごと保存したデータであるといえるでしょう。しかし、この「まるごとさ」は調査にとって朗報でしょうか。簡単にはそうとは言えないと思います。それは、ビデオカメラの「画角」が「視野範囲類似的志向性」を失ったことによる困難を我々は無視できないからです。じつは、これまでのビデオデータを用いた研究は、自覚しない形で、この「視野範囲類似的志向性」を活用して研究をしていました。我々の眼は、世界を視野的に切り取る働きをしていて、そこに、志向性の根拠も、視線を向けられたことに対する反応の根拠もあったのですが、ビデオカメラがとらえた映像を分析する際にも、我々は、人間の眼の働きにおいて有意味化していた諸概念を、ほぼそのまま流用していたのです。これまでのような野砲図な流用は今後はもうできないかもしれない……。これは、ビデオを利用した人文・社会科学的研究の危機です。しかし、この現在の危機的状況には解放の側面もあるかも知れないということを、岡田論文は訴えています。じつは、他の論文（堀田論文、藪本論文、松浦論文）も、見ること／見られることにかかわる論文です。普通の障害経験の語りとは違う位相から「ろう者の語り」を分析した飯田論文同様、本号には、我々が世界を知るためにどのように感覚器的常識を生きたり、生きなかつたりするべきか、に関して示唆的な論文が集まっています。本号もどうぞお楽しみ下さい。なお、本号掲載の特集は、ショッピングリハビリ共同研究（科研費23K17573）の成果の一部です。ファンド提供者に記して感謝します。（Y.K.）

\*\*\*\*\*

『現象と秩序』編集委員会（2025年度）

編集委員会委員長：堀田裕子（摂南大学）

編集委員：樋田美雄（摂南大学）、飯田奈美子（関西外国語大学）、加戸友佳子（摂南大学）

編集協力：村中淑子（桃山学院大学）

編集幹事：大江勇輝（京都産業大学）

『現象と秩序』第23号 2025年10月31日発行

発行所 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8

摂南大学 現代社会学部 樋田研究室内 現象と秩序企画編集室

電話・FAX：072-800-5389（樋田研）、e-mail：kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN：2188-9848, ONLINE ISSN：2188-9856

<https://gensho-kashidayoshio.sakuraweb.com/> （←昨年から新サイトになりました）

\*\*\*\*\*